

ごあいさつ



東京通信病院 病院長
安原 洋

「けんこう家族」では東京通信病院からのお知らせ、最近話題の病気やその検査法、スタッフの異動などをご紹介します。そこで今回は、まず私の自己紹介から始めることにいたします。

本年4月1日付で病院長として着任いたしました安原 洋（やすはら ひろし）と申します。前職は、当院から遠くない東大病院「手術部」で手術室の運営を担当していました。あまり皆様には馴染みがないと思いますが、手術室は多くの外科系診療科が利用する診療支援部門です。また、手術の診療報酬は病院経営上も非常に重要で、手術部は外科だけでなく、病院機能の一端を担っています。ただ、薬剤部や検査部などと異なり、一つの診療科が部屋を使用すれば、それは直ちに他の診療科へも影響し、時には各科の希望が競合する場合もあります。そして、この調整を公平に行うことが手術部の仕事になります。手術部は全ての病院にあるわけではありませんが、国立大学病院など大規模病院で広く設置されています。

実は私は、30年前に外科医として当院に勤務したことがございます。期間は半年間と長くはありませんでしたが、その時のことは私の中に強い印象を残しました。当時の外科部長は本間静夫先生と轟敬先生で、手術の直接指導は大野博通先生が

してくださいました。東京通信病院は伝統がありアメニティも充実して、当時からの部署も職員が皆家族のような温かい雰囲気があり、私はこの病院がすっかり気に入ってしまいました。今回のお話をいただいた時、30年前の当時の思い出がよみがえり、自分はこの病院に縁があるに違いない、またこの病院の一員となって自分にできることをやってみたい、そういった気持ちが湧いてきました。

久しぶりに足を踏み入れた当院は私の記憶に残った当時の姿そのまま、懐かしさがこみ上げてきました。今となっては、少しくラシックな内装の印象ですが、逆に30年を経ても他の病院の追随を許さない、独特のたたずまいを醸し出しています。私は、この伝統をしっかりと受け継いで、後世に残してゆきたいと思います。ただ、伝統とは変わらないことではありません。その時代、その時代に合った大胆な変革があるからこそ、伝統は残ってゆくものだと思います。

これからも、折に触れ皆様のご意見やご希望をお聞きいたします。東京通信病院を皆様に選ばれる病院にすること、それこそが縁があってこの東京通信病院の院長となった私の“使命”だと信じています。

どうぞこれからもよろしくお願いいたします。



当院の関節鏡治療

本年4月1日をもちまして、整形外科部長に昇任いたしました平岡です。今後とも皆様のお役に立てる様がんばってまいります。よろしくお願いいたします。

1 東京通信病院は関節鏡手術発祥の地

ここ、東京通信病院整形外科は、現在では関節治療の大きな柱となっている関節鏡手術発祥の地です。1959年に故渡辺正毅先生（当時整形外科部長）が渡辺式21号関節鏡を開発（Fig）、世界に先駆けて臨床に実用化し、その後世界に広がりしました。その歴史ある東京通信病院整形外科では、現在でも関節鏡手術を得意とし、高度な技術を駆使して治療を行っています。

2 関節鏡視下膝前十字靱帯(ACL)再建術

前十字靱帯は膝関節の中心に位置し、膝の運動において極めて重要な役割を担っています。スポーツ中に損傷することが多く、スポーツ外傷の中でもその頻度は極めて高いものです。この怪我には関節鏡を用いた靱帯再建手術が治療の第1選択です。関節鏡視下に膝屈筋腱や膝蓋腱を用いて解剖学的位置に正確に靱帯を再建することで手術後6～8か月でスポーツ復帰が可能になります。同様に、膝後十字靱帯損傷の治療も関節鏡を用いて解剖学的再建を行っています。

3 関節鏡視下半月板縫合術

膝関節内でクッションの役目を果たしているのが半月板です。スポーツ外傷、先天性異形、年齢変化などで損傷されることがあります。膝周囲筋力強化訓練（東京通信病院整形外科のホームページにそのやり方を掲載しています）が第1選択ですが、筋力強化励行でも症状が改善しない場合に

は関節鏡視下縫合術を行います。骨切り術（病院ホームページの整形外科のページをご参照ください）を併せて行うこともあります。スポーツ復帰が可能までの回復を目標としています。



整形外科部長
平岡 久忠

4 その他、関節鏡を用いた手術

関節内骨折、関節軟骨損傷、膝蓋骨脱臼、タナ障害、滑膜炎、良性腫瘍、遊離体の治療など、人工関節以外の膝関節治療はほとんどが関節鏡を使用して行われます。関節鏡視下手術は傷も小さく、リハビリも速く、患者さんにはメリットが極めて大きな治療法です。東京通信病院整形外科は高い関節鏡技術を維持し、さらに研鑽を積み、患者さんには良好な治療結果を提供できているものと自負しています。また、当院では関節鏡手術ばかりでなく、人工関節手術も積極的に行っています。膝関節疾患でお困りの患者さんは是非東京通信病院整形外科にご相談ください。



渡辺21号鏡（左上）と現在の関節鏡（右下）。21号鏡では電球（青矢印）を関節内に入れて光を供給し、スコープ越しに関節内を直接覗いていた。現在の関節鏡はスリムになり、外部の光源からファイバーケーブル（赤矢印）を介して光を関節内に導入し、画像はモニターに拡大して映し出される。



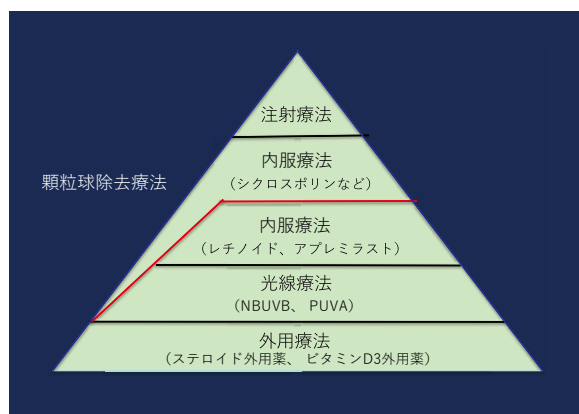
乾癬について

4月より皮膚科部長を務めている三井と申します。前任の江藤隆史先生の20年後輩で、専門も同じアトピー性皮膚炎と乾癬です。江藤先生と同様、皮膚疾患についてはオールラウンドに診察しますので、皮膚でお困りのことがありましたら何でもご相談ください。今回は乾癬についてお話ししたいと思います。

乾癬は炎症性角化症の代表的な病気です。症状の特徴として“炎症＝皮膚の赤み”と“角化＝かさかさ”があります。皮膚の入れ替わりは通常約45日なのですが、乾癬では4、5日と短縮します。皮膚症状だけでなく、関節痛、高血圧、心筋梗塞、うつ症状などを伴うことがある全身的な病気です。

原因はまだ完全には解明されていませんが、白血球のうちのTh17細胞（ヘルパーT細胞の一種）が重要であることが分かっています。治療も外用療法だけでなく、紫外線療法、内服療法、注射療法、顆粒球除去療法など多くの選択肢があります。

治療の選択肢が多くあると選択に迷うかもしれませんが、当科では効果、副作用、費用などをお話して患者さんと一緒に決定していきます。図のような治療の枠組みを示す“ピラミッド計画”を使うことがあります。これは下から順番に選ばなくてはいけないというものではありません。下の方が治療対象の幅が広い、ということを示しています。



乾癬治療のピラミッド計画

参照：飯塚 一：Visual Dermatology 16:850-851, 2017より一部改変

当科の大きな特徴として、紫外線装置が充実していることが挙げられます。ピラミッドの図でも紫外線療法は2番目に適応の広い治療です。紫外線装置はNBUBVという皮膚疾患に有効な波長だけを出すもので、副作用を



皮膚科部長
三井 浩

なるべく少なくしており、日焼けサロンの装置とは異なります。皮膚症状の大きさ、部位に応じて色々な装置を使い分けていきます。全身、下肢のみ、スポットのみと皮疹のタイプに応じて全身型、半身型、エキシマライトと使い分けています。

注射製剤は、乾癬の病態をピンポイントで抑制するもの（生物学的製剤）で、効果が高く副作用が少ないのが特徴です。現在8種類ほど発売されていますが、日本皮膚科学会で指定された病院でしか投与することができません。当科では全て対応可能です。各製剤の特徴がありますので、個々の患者さんに合わせて一緒に決定していきます。高価な製剤ですが、加入している保険と収入によっては国から補助金が出ます。まずは受診して頂き、気軽に相談してください。



当科の紫外線装置

奥：右から全身型、全身型、半身型
手前：エキシマライト



交通のご案内



ご利用案内

診療科

内科、内分泌・代謝内科、血液内科、神経内科、感染症内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科、精神科、外科(乳腺センター)、消化器外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科(関節鏡・スポーツセンター)、婦人科、小児科、眼科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科(ペインクリニック)、緩和ケア内科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

外来診療日

- 月曜日～金曜日(祝日及び年末年始を除く)

予約の方法・予約受付の時間帯等

- 電話での予約…9:00～17:00(土・日・祝日及び年末年始を除く)
- 電話番号……03-5214-7381

時間外(急患)診療

- 連絡先……03-5214-7768(救急診療室)

診療受付時間

窓口	午前の診療	8:30～11:00
	午後の診療	12:30～16:00
自動受付機 (予約のある方のみ)		8:00～16:00

人間ドックセンター

- 連絡先……03-5214-7055、7167
オプションで脳ドック、肺がんドックも行っております。

注意事項

- **処方箋**は、使用期間[発行日を含めて4日(土曜・日曜・休日を含む)]を過ぎると無効になりますのでご注意ください。
- **お薬手帳**を携帯しましょう。入院、外来、薬局で必要になる他、外出時の急病・受傷時にも有用です。



理念

私たちは、患者さんに満足いただける心のこもった良質な医療を提供し、社会に貢献します。



医療を通じて得られるもの

～カンボジアでの医療活動の中で～

カンボジアのジャパンハート（国際医療NGO）医療ボランティアへの参加は、今回で3回目、ラオスを含めると4回目となる。2014年にはじめてカンボジアを訪れたときには、プノンペンの小さなビルの一室を事務所として、活動内容も手作りの地方病院での移動（モバイル）手術活動がメインであったが、2016年にジャパンハート医療センター（2018年にジャパンハートこども医療センターとしてリニューアル: Japan Heart Children's Medical Center以下JHCMC）を開院後は、地方の村へのモバイル診療や手術活動は一時停止していた。病院での活動も軌道に乗り、2018年5月よりモバイル活動が再開された。今回は、JHCMCから35km離れたメコン川のほとりの田舎町にあるロカカオン病院で、2019年2月12日～16日間の5日間、モバイル手術活動を行った。今回の活動には、私以外に、卒後5年目の外科医師石井俊、病棟ナース八木里恵、手術室ナース芦名里礼の4人の東京通信病院チームで参加した。

事前に、現地スタッフや日本人ボランティアが診療活動を行い、手術の適応となる患者を集め、手配を整えてくれていた。驚いたのは、以前には新人だった、現地看護師スレイトーチがチームリーダーとなり、同じくピエンが麻酔をかける資格を持つ看護師に成長を遂げていたことであった。のどかな田舎町のゆったりとした雰囲気の中、皮膚の腫瘍、鼠径ヘルニア、痔核、痔瘻など1日5件程度の手術をこなしていった。そんな中、44歳の男性が村人の助けを借りながら担ぎ込まれてきた。意識は朦朧とし、血圧も低くショック状態で、体温は40度を超えていた。診察すると肛門の周囲が赤黒く腫れ上がり、肛門周囲膿瘍の状態であった。聞けばアルコール依存症で、糖尿病がひどいという。急速輸液を行い、緊急のドレナージ手術を行う必要があると考えられたが、万が一、ここでそれを行うと、術後の全身管理に手を取られ、残りの予定手術が滞ること、モバイル手術のため、人手や医療機材が最低限であることから、高次の医療施設への

搬送も考慮された。しかし、彼の家族は、医療を受けさせる金がないので、ジャパンハートでの治療が駄目ならあきらめるという…そこへカンボジア人スタッフから、「JHCMCまで搬送して、そこで手術してはどうでしょう？」と意見がでた。その日の残りの手術をやりくりし

て、スタッフ移動用のワンボックスカーに、患者とその妻を乗せ、すし詰め状態で、40分の悪路を移動した。JHCMCでは常勤のスタッフが待ち構えており、速やかに手術室に搬送された。麻酔はもちろんピエンの担当である。切開すると、物凄い悪臭を伴う膿が大量に排出された。術後はショック状態が遷延し、敗血症治療を行っても、無尿の状態が続き、危険な夜を過ごすこととなった。ようやく翌日には尿がスタートし、回復に向かった。その後は、アルコール離脱との戦いが続いた。

ジャパンハートのカンボジアでの活動は、2008年から始まった。11年目を迎える今、その活動は現地に根付き、参加する日本人医療者のみならず、カンボジア人の医療者を多く育てている。今回の患者への対応が、カンボジア人スタッフからの提案から始まっていることに、その成果を感じさせる。いずれは、カンボジア人によって病院が運営されるようになるだろう。また、今回、一緒に参加した3人にとっても、アジアの貧しい人々が抱える医療事情を知り、今後の国境を越えた人と人との命の架け橋となってくれと信じている。

帰国後の2月26日、カンボジアの日本人看護師藤井さんから、メールが届いた。「あの患者さんが昨日、退院したんですよ。」満面の笑みを浮かべるあの患者の写真が添えてあった。この笑顔を見るために、この仕事をしているんだなあと思えるものがこみあげてきた。



外科主任医長
村田 祐二郎



ロカカオン病院で記念写真



東京通信病院チーム



石井医師と
フィリップ医師



笑顔で退院



新 任 医 師 紹 介

2019年4月1日採用



皮膚科部長
みつい ひろし
三井 浩

4月より皮膚科に赴任しました。患者さんに寄り添った医療を目指します。どうかよろしくお願い致します。



麻酔科医長
たけだ まさこ
武田 昌子

主に手術室の麻酔業務、外来で痛みの治療をして参りました。今までの経験を活かし、皆様に安心して麻酔や痛みの治療を受けていただけるようにしたいと思っております。



病理診断科医長
たに りょうすけ
田尻 亮輔

4月より病理診断科に赴任致しました。質の高い診断を遅滞なくお届けできるように、平素より努めて参ります。



内科医師
あんどう さとる
安藤 智

3年目の安藤智と申します。後期研修医として日々勉強しながら患者さんのために貢献していきたいと思ひます。



内科医師
あさの りょう
浅野 涼

4月より内科医として赴任させていただきました。患者さんのお役に立てる医療を目指して参りますので、よろしくお願い致します。



腎臓内科医師
かせだ けん
加世田 健

4月より腎臓内科として赴任した、加世田と申します。患者さんに安心していただけるような医療を目指して精進してまいりますのでよろしくお願い致します。



呼吸器内科医師
いなば あつし
稲葉 敦

4年ぶりに東京通信病院呼吸器内科でまた勤務させていただくことになりました。患者さんの気持ちに寄り添った医療を心掛けて参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



整形外科医師
やまだ なおき
山田 直樹

4月より整形外科に赴任いたしました。患者さんが安心して医療を受けられるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。



脳神経外科医長
おかもと こういちろう
岡本 幸一郎

4月より赴任致しました。脳神経疾患に対して誠心誠意診療させていただきます。よろしくお願い致します。



麻酔科医長
よこしま や え こ
横島 弥栄子

安心して手術を受けることができるよう、スタッフと協力し、一人ひとり丁寧な診療を心掛けて参ります。よろしくお願い致します。



内科医師
ひきだ ゆうき
匹田 祐樹

初期研修医から継続して勤務しています。当院のような素晴らしい環境で今後も医師として成長できるよう努めます。



内科医師
うへら えり
内藤 恵里

2019年4月より内科医として勤務している内藤恵里と申します。患者さんに寄り添った医療を提供出来るよう努めますので、どうぞ宜しくお願い致します。



内科医師
かとう ゆうすけ
加藤 祐介

2019年4月より内科医として勤務させていただいております。患者さんに安心していただけるよう、丁寧な医療を心がけて参ります。よろしくお願い致します。



消化器内科医師
まつい とおる
松井 徹

消化器内科の松井と申します。良性疾病だけでなく、癌の早期発見にも重点をおきたいと考えています。



外科医師
こば つゆは
木庭 露葉

まだまだ勉強中の身ではありますが、患者さんにとって一番良い治療を提供できるよう、丁寧に診療していきたいと思ひます。



整形外科医師
まつお こうじ
松尾 康史

4月より赴任しました整形外科の松尾と申します。患者さんやご家族とのコミュニケーションを大切に、安心して診療を受けていただけるよう努力して参ります。宜しくお願い致します。





眼科医師
ちん いつねい
陳 逸寧

4月より眼科に赴任いたしました。より良い医療を提供できるように頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



皮膚科医師
かわい とおる
河合 徹

分かりやすい説明を心がけ、患者さんのお役に立てよう頑張っております。どうぞよろしくお願いいたします。



泌尿器科医師
おの あきひろ
小野 晃裕

4月より泌尿器科に赴任いたしました。皆様のお役に立てよう努めて参ります。よろしくお願いいたします。



I V R科医師
こしの さおり
越野 沙織

I V R科に赴任しました越野沙織と申します。安心・安全の医療を心がけていきたいと思ひます。何卒よろしくお願いいたします。



眼科医師
あがた ちさと
縣 千聖

新しく4月より眼科に勤務いたしました縣と申します。患者さんひとりひとりに沿った医療を提供できるよう心がけますのでよろしくお願いいたします。



皮膚科医師
みなみはら ゆきな
南原 優希奈

4月から赴任しました皮膚科の南原優希奈です。患者さんに寄り添った医療を提供できるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。



放射線科医師
おきもと なおまさ
沖元 斉正

4月より赴任いたしました沖元と申します。患者さんに安心な医療を提供いたします。よろしくお願いいたします。



救急科医師
くの しんいちろう
久野 慎一郎

今年度より救急総合診療センターに着任しました。地域に根差した救急医療を目指して参りますのでよろしくお願いいたします。

2019年6月1日採用



形成外科医師
いわい なつこ
岩井 奈都子

6月より赴任しました、形成外科の岩井と申します。安全・良質な医療で地域の皆様に貢献出来ればと思ひます。些細なことでも、お気軽にご相談ください。

当院を退職しました

2019年3月31日退職

平田 恭信（病院長）	江藤 隆史（副院長兼皮膚科部長）	冲永 修二（院長補佐兼整形外科部長）
平石 禎子（院長補佐兼麻酔科部長）	丸野 紗也子（内科 医師）	岡本 富美子（内科 医師）
鈴木 祥代（内科 医師）	青木 惇（内分泌・代謝内科 医師）	久木元 絢子（血液内科 医師）
長村 航（呼吸器内科 医師）	榎戸 貴祥（呼吸器内科 医師）	津久井 元（外科主任医長兼外来化学療法センター長）
石井 俊（外科 医師）	野村 征司（脳神経外科 医師）	児玉 理恵（整形外科 医師）
荒川 嵩大（整形外科 医師）	大島 博美（眼科 医師）	上田 浩平（眼科 医師）
松浦 裕貴子（皮膚科 医師）	重野 和彦（皮膚科 医師）	村橋 整（皮膚科 医師）
住永 莉華子（形成外科 医師）	方波見 有貴（泌尿器科 医師）	神谷 勝（放射線科 医師）
鎌田 裕敬（麻酔科 主任医長）	河村 研人（麻酔科 医師）	

「ネコ先生の『神楽坂通信』」は、紙面の都合によりお休みさせていただきます。



ナースステーション

人生100年 自分らしい生活を送れるように!!!

6階東病棟は整形外科病棟です。整形外科と言ってもその対象はさまざまで、加齢による変形性膝関節症への関節手術や、サッカー・スキーなどのスポーツ中に靱帯を損傷した方の手術などを行っています。そのほかに、股関節や、指、腕、肩の手術の患者さん、また予期せぬ転倒や事故で突然骨折した方の緊急手術や入院にも対応しています。

患者さんは、今まで何の問題もなく生活できていたことが、手術や病気によって手足を自由に動かすことができなくなってしまうます。そこで私たち看護師は、入院されたすべての方が安心して、快適な入院生活が送れるように療養環境を整え、患者さんの状態に合わせてケアを行います。また、日常生活が自立できるようにリハビリを行うことは重要です。リハビリ療法士と連携をとり、毎日の生活の中にもリハビリの要素を取り入れて励ましながら関わっています。

当院整形外科では、医師、看護師、リハビリ療法士、退院支援などさまざまな専門分野のメンバーが退院後の生活を不安なく送れるよう患者さんや家族の意向を尊重して、チームとして医療・看護を提供しています。整形外科チームの目標は、「患者さんひとりひとりが自分らしい生活を取り戻し、笑顔で生活できること」です。患者さんはもちろん、とりまくすべての職員が元気で、笑顔にあふれた病棟をつくっていきたくと考えています。




6階東病棟
看護師長
平良 礼子

人間ドックのおすすめ


人間ドックセンター

年に1回は健康チェック



男性 基本検査		
身体測定 呼吸器系 循環器系 腎・泌尿系 代謝系	肝・胆道系 消化器系 血液系 炎症・その他	眼科 耳鼻科

料金 44,300円
追加でオプション検査もご紹介します。



女性 基本検査		
身体測定 呼吸器系 循環器系 腎・泌尿系 代謝系	肝・胆道系 消化器系 血液系 炎症・その他	眼科 耳鼻科 婦人科(子宮頸がん検診) 外科系(乳房撮影+触診)

料金 51,500円
追加でオプション検査もご紹介します。

「令和元年」物事の始まりの年、ご自身の健康管理を！ 人間ドックや健康診断はいかがですか？

ご自身の健康管理のため、「人間ドック」を受けて見られてはどうでしょうか？標準コースは、インターネットからお申し込みいただけます。ホームページまたは、右側のQRコードからご希望のコースをお選びください。オプションも追加できますので併せてご検討ください。

2019年5月27日以降、当院人間ドックセンターでは、いわゆる法定健診「定期診断」、「採用時健康診断」、「海外渡航時及び帰国時の健康診断」、「特定健康診断」を実施しています。近隣の企業さまや、千代田区近隣にお住まいの方でご希望される方は、是非当院で健康診断をお考えください。実施時間など詳細については、お電話でお問合わせください。(電話03-5214-7055 なお、法定健診のインターネットからの予約に関しましては、準備でき次第ホームページでお知らせします。)

